

米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

●米国：2020年12月10日公表ほか USDA Crop Production

10月の農業気象概況（2020年11月10日公表）

9月に引き続き、10月にはさらにデルタ（Delta）及びゼタ（Zeta）の2つのハリケーンが米国に上陸し、現時点までに襲来したハリケーンの総数は6つとなった。過去に米国本土に上陸したハリケーンの数がかつを上回ったのは、1887年の7つだけである。10月の2つのハリケーンはともにルイジアナ州に打撃を与えた。デルタは10月9日にクレオール（Creole）付近に上陸したが、その位置は6週間前にハリケーン・ローラ（Laura）が海岸沿いを通過したのと同じ郡の数マイルしか離れていない場所だった。ゼタは10月18日にこれより東方の内陸へ進み、ココドリ湖（Cocodrie）に到達した。デルタの上陸時の風速は100mph（マイル/時、44.7m/秒）でゼタの110mph（49.2m/秒）に比べてやや弱かったが、ゼタは動きが速く雨量はデルタより少なかった。それでも、夏の終わりから秋にかけていくつもの熱帯低気圧（ベータ（Beta）及びハリケーン（ローラ、サリー〔Sally〕、デルタ及びゼタ）に見舞われたことで、米国南東部の夏作物の作柄に影響が生じており、綿花及び落花生がそのうちに含まれている。

これよりも北方の大平原地域及び米国中西部では、それまで続いていた穏やかで乾燥した天候が10月半ばに突然変化して、寒冷で荒れた天候となった。10月18日までの4週間に、米国全体のトウモロコシの半分以上（52%）、ダイズの69%の収穫が行われたが、それ以降は、過去最低記録に近い低温、雪及び雨の影響で米国中西部で農作業の遅れが目立った。大平原地域の北部及び米国中西部の北部では、10月としては過去最高記録の降雪に見舞われた。

10月後半の収穫作業の妨げとなった荒れ模様の天候が、冬作の小麦には良い影響を及ぼした。米国干ばつ監視委員会（the United States Drought Monitor）によれば、10月27日の時点では米国の冬作小麦生産地域の46%が干ばつの状態にあり、これは前年同時期の割合を9%上回っていた。10月末の雨、みぞれ及び雪によって、特にハイプレーン地域（the High Plains）で、

小麦の発芽及び生育に必要な土壌湿度が得られた。ただし、降水に伴う低温の影響で、作物の生育に一時的な遅れが生じた。11月1日までの時点で、米国全体の冬作小麦の5分の1近く（19%）で生育状態が「非常に悪い」から「悪い」と評価されており、特に大きく影響を受けたコロラド州及びテキサス州では、この割合が28%となっている。

10月末の降水は、米国西部ではロッキー山地地域まで及んだものの、ファールウェスト地域（the Far West、ミシシッピ川以西の地域）の大部分では乾燥状態が続いた。米国干ばつ監視委員会によれば、米国西部の4分の3以上の地域が干ばつとなっており、放牧地及び牧草地には引き続き大きな影響が生じている。10月25日の時点で、米国西部の放牧地及び牧草地で「非常に悪い」から「悪い」の評価を受けている割合は、アイダホ州の36%からオレゴン州の86%まで広範囲にわたっている。同じ時点で米国全体では、放牧地及び牧草地の43%が「非常に悪い」から「悪い」となっており、この割合は最近で一番高かった夏の終わりの46%をわずかに下回っているものの、それを除けば2012年以来のどの年度と比べても同じ時期の割合を上回っている。

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2019	2020	2019	2020	2019	2020	2019	2020
ヒヨコマメ	182,680	102,790	163,490	100,850	1.73	1.75	282,910	176,400
乾燥食用インゲンマメ	521,000	705,370	476,120	681,090	1.98	2.33	943,970	1,586,850
乾燥食用エンドウ	446,370	404,290	425,730	384,050	2.38	2.19	1,013,600	840,690
レンズマメ	196,680	209,630	174,420	196,680	1.4	1.5	244,400	295,020

生産量：米国農務省（USDA）、農業統計委員会、米国農業統計局（NASS）から、2020年12月10日付けで公表。
米国の2019作物年度及び2020作物年度（推定）の作物別作付面積、収穫面積、単収及び生産量。
〔データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度（2020作物年度）の推定である。〕

●カナダ：2020年11月20日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops ●

概観

本報告書は、10月22日付けで公表されたカナダ農業食料省の2020/21作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。トウモロコシ及びダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。

乾燥エンドウ

2020/21年度のカナダの生産量は、前年度に比べて3%増加して440万tとなる見込みである。これは、主として、特にカナダ全体のエンドウ生産量の45%を占めるアルバータ州で単収が向上したことによるものである。黄色乾燥エンドウの生産量は、前年度と同様で350万tとなる見込みであり、緑色乾燥エンドウ生産量は増加して70万tとなる見込みである。その他の各種銘柄の乾燥エンドウ生産量の合計は、減少して13万tとなる見込みである。期初在庫量が減少したにも関わらず、供給量は前年度と同様の470万tとなる見込みである。輸出量は増加して380万tとなる見込みである。2020年8月から9月までの時点では、中国、米国及びバングラデシュがカナダの輸出先の上位3位までを占めている。供給量が変わらなかったにも関わらず、期末在庫量は減少するものと見込まれている。2020/21年度の平均価格は前年度に比べて11%上昇して295ドル/tとなる見込みである。

10月中では、サスカチュワン州の黄色乾燥エンドウの生産者価格は45ドル/t上昇し、緑色乾燥エンドウの生産者価格は30ドル/t上昇した。現時点での作柄指標によれば、カナダ産第1等級及び第2等級の乾燥エンドウ供給量は、前年度に比べて増加する見込みである。現時点までのところでは、緑色乾燥エンドウの価格が黄色乾燥エンドウの価格を35ドル/t上回っているが、前年度の同時期には115ドル/t上回っていた。

米国の2020/21年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、前年度に比べて9%減少して40万4,700haとなる見込みである。これは主としてノースダコタ州で作付面積が減少したことによるものである。単収は平年並みを上回る見込みであり、米国農務省の予測によれば米国の乾燥エンドウ生産量は17%減少して80万t余りとなる見込みである。米国産乾燥エンドウの主要な輸出市場は、カナダ、フィリピン及びインドである。

レンズマメ

2020/21年度の実生産量は29%増加して310万tとなる見込みであるが、これは単収の向上及び作付面積の増加によるものである。赤色レンズマメの実生産量は前年度に比べて大幅に増加して210万tとなり、大粒緑色レンズマメの実生産量は減少して70万tとなる見込みである。その他のレンズマメ全品種の実生産量は、前年度に比べて減少して30万tを下回る見込みである。

輸入量は、大部分が米国からであるが、5万tとなる見込みである。しかし、期初在庫量が少なかったことから、供給量は前作物年度と変わらない見込みである。輸出量は全作物年度に比べてわずかに増加して290万tとなる見込みである。現時点では、インド、アラブ首長国連邦及びトルコが輸出市場の上位を占めている。生産物の品質が向上したことから、国内利用量は前年度に比べて13%減少する見込みである。期末在庫量は4%減少して20万tと、少なくなる見込みである。全般的に平均価格は2019/20年度の水準に比べて29%増加する見込みであり、これは、主として等級分布が平年並みを上回っていることによる。

10月中のサスカチュワン州の大粒緑色レンズマメの生産者価格は、前月に比べて60ドル/t上昇しており、赤色レンズマメの価格は15ドル/t上昇した。これは主として輸出需要が強まっていることによる。前年度に比べて、2020/21年度は第1等級及び第2等級のカナダ産レンズマメ供給量が増加する見込みである。現時点までのところ、大粒緑色レンズマメの価格は、赤色レンズマメの価格を120ドル/t上回ったが、2019/20年度には赤色レンズマメの価格を105ドル/t上回っていた。

米国の2020/21年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2019/20年度に比べて7%増加して20万haを上回る見込みであるが、これは主としてモンタナ州で作付面積が増加したことによるものである。単収が平年並みを上回り、収穫を断念する面積の割合が低下する見込みであるが、2020/21年度の米国のレンズマメ生産量は、米国農務省の予測によれば、2019/20年度の水準から21%増加して30万tとなる見込みである。現時点での米国産レンズマメの主要な輸出市場は、EU諸国、カナダ、インド及びメキシコである。

乾燥インゲンマメ

2020/21年度の実産量は15%増加して36万5,000tとなる見込みである。このうち9万5,000tがホワイト・ビーンであり、27万tがカラード・ビーンである。オンタリオ州の実産量は減少したが、これは単収が低下したことによるものである。マニトバ州では実産量が増加しており、これは単収が向上したことによるものである。アルバータ州では、カラード・ビーンの実産量が増加したが、これは単収が向上したことによるものである。期初在庫量が減

少したことから、供給量の増加は7%に留まる見込みである。

輸出量は前年に比べてわずかに減少する見込みである。8月及び9月のデータによれば、EU諸国及び米国が輸出市場の上位を占めており、アンゴラ及びメキシコへも、より少ない量が輸出されている。供給量が高水準であったことと需要が弱かったことから、期末在庫量は増加する見込みである。北米大陸での供給量が増加したことから、カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は15%低下する見込みである。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、35%増加して68万7,990haを下回る見込みであるが、これは主としてノースダコタ州で作付面積が増加したことによるものである。2020/21年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量（ヒヨコマメを除く）は、米国農務省の予測によれば、2019/20年度に比べて68%増加して160万tとなる見込みである。特に増加が顕著だった銘柄は、ホワイトピー・ビーン及びピントー・ビーンであった。米国産乾燥インゲンマメの輸出市場は、引き続きEU諸国及びメキシコである。

ヒヨコマメ

2020/21年度の生産量は前年度に比べて5%減少して23万9,000tとなる見込みであるが、これは収穫面積の減少によるものであり、単収は向上している。カブーリ種の生産量は前年度に比べて減少する見込みであり、デン種の生産量は増加する見込みである。このような状況であるにも関わらず、期初在庫量が多かったことから、総供給量は23%増加する見込みである。輸出量は、10万5,000tとなる見込みであり、米国及びパキスタンが輸出市場の上位を占めている。主として供給量が増加し、引き続き在庫量が多いことから、期末在庫量は増加する見込みである。平均価格は14%上昇する見込みであるが、これはカナダ産ヒヨコマメの品質が平年並みを上回る見込みであることと、世界の生産量が増加する見込みであることによるものである。

2020/21年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、10万1,175haとなる見込みであって、2019/20年度に比べて44%の減少となる。単収が向上し、収穫を断念する割合が低下するものとする、2020/21年度の米国のヒヨコマメ生産量は、米国農務省の予測によれば、前作物年度に比べて38%減少して17万tとなる見込みである。

表2 カナダの豆類作付面積・収穫面積、単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2018-2019	2019-2020 [f]	2020-2021 [f]	2018-2019	2019-2020 [f]	2020-2021 [f]	2018-2019	2019-2020 [f]	2020-2021 [f]	2018-2019	2019-2020 [f]	2020-2021 [f]
作付面積 (1,000ha)	1,463	1,753	1,722	1,525	1,530	1,713	143	160	173	179	159	121
収穫面積 (1,000ha)	1,431	1,711	1,675	1,499	1,489	1,681	137	150	157	176	156	115
単収 (t/ha)	3	2	3	1.46	1.6	1.82	2.49	2.11	2.32	1.77	1.61	2.07
生産量 (1,000t)	3,581	4,237	4,360	2,192	2,382	3,065	341	317	365	311	252	239
輸入量 (1,000t) [b]	62	82	85	51	90	50	98	75	75	51	48	50
総供給量 (1,000t)	4,291	4,630	4,678	3,115	3,327	3,324	459	456	490	376	439	539
輸出量 (1,000t) (b)	3,270	3,781	3,800	2,033	2,861	2,900	348	361	345	147	105	105
国内総利用量 (1,000t) ©	708	616	653	227	258	224	47	45	45	89	85	84
期末在庫量 (1,000t)	312	233	225	856	209	200	65	50	100	140	250	350
在庫量/利用量 (%)	8	5	5	38	7	6	16	12	26	59	132	185
平均価格 (ドル/t) (d)	270	265	295	390	485	625	815	985	835	480	490	560

[a] 作物年度（8月から7月）

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量＝食用及び加工原料用＋飼料用廃棄物＋種子用＋損耗。国内総利用量は総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格（FOB）。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: AAFC（カナダ農業食料省）による推定。ただし、レンズマメ及び乾燥エンドウの、2019/20作物年度 [f] 及び2019/20作物年度 [f] 以前の年度の作付面積、単収、生産量はSTC（カナダ統計局）の推定。2019/20作物年度 [f] 以前の年度の輸入量、輸出量、種子用及び期末在庫量はSTC（カナダ統計局）の推定。

典拠：カナダ統計局（STC）及びカナダ農業食料省（AAFC）。

● オーストラリア：2020年12月公表 ABARES Australian crop report

概観

オーストラリアの冬作物の総生産量は、ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州及び南オーストラリア州の大部分の生産地域で春季を通して非常に良好な生育条件に恵まれたことから、急激に増加した。上記の州では全般的に冬作の後半に作柄が非常に良好な状態にあり、さらに作物の生育の決め手となる9月から10月にかけて良好な降水量に恵まれて土壌水分量が増加した。西オーストラリア州及びクィーンズランド州では、冬作の作柄の見通しが他の州に比べて低く、生育条件に恵まれなかった影響で春季の始めに単収の見通しが引き下げられた。2020/21年度のオーストラリア全体の冬作の総生産量は、前年度に比べて76%増加して5,150万tとなる見込みであり、この値は2016/17年度の5,670万tに次ぐ史上第2位の記録となっている。ニューサウスウェールズ州の生産量は過去最高記録となり、ヴィクトリア州の生産量は史上第2位となっている。南オーストラリア州の生産量は平年並みを大きく上回る見込みである。ABARES（オーストラリア農業資源経済局）が2020年9月に公表したオーストラリア作物生産状況報告書の生産量見通しのデータは、12月の時点での見通しにおいて、7.4%上向きに修正された。主要な冬作物については、小麦の生産量は106%の増加で史上第2位の3,120万

tとなる見込みである。オオムギの生産量は33%の増加で史上第2位の1,200万tとなる見込みである。ナタネの生産量は59%の増加で史上第5位の370万tとなる見込みである。その他の作物では、ヒヨコマメの生産量が162%の増加で73万7,000tとなる見込みであり、オートムギの生産量が89%の増加で160万tとなる見込みである。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2018-19	2019-20s	2020-21f	2018-19	2019-20s	2020-21f
ヒヨコマメ	294	263	498	205	281	737
ファバビーン (ソラマメ)	234	196	269	233	327	516
フィールドビー	230	225	201	160	219	287
レンズマメ	400	360	368	359	534	616
ルーピン	661	484	496	799	475	714

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作物年度は4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。作付面積には、収穫に至った面積、途中で飼料用に転用された面積及び収穫を断念した面積が含まれる。

資料: ABARES (オーストラリア農業資源経済局)、ABS (オーストラリア統計局)、Pulse Australia。

表4 オーストラリアの州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)
ヒヨコマメ												
2018-19	59	22	33	24	165	118	26	27	11	14	0	0
2019-20s	25	20	50	75	170	170	10	10	8	6	0	0
2020-21f	210	378	45	68	230	275	8	11	5	5	0	0
2019/20年度までの5年間の平均	282	346	38	42	329	455	20	22	7	8	0	0
フィールドビー												
2018-19	46	18	83	43	0	0	74	53	27	45	0	0
2019-20s	35	32	55	55	0	0	105	100	30	32	0	0
2020-21f	34	61	47	66	0	0	85	115	35	45	0	0
2019/20年度までの5年間の平均	51	51	65	62	0	0	99	109	28	41	0	0
レンズマメ												
2018-19	8	3	207	128	0	0	169	213	15	15	0	0
2019-20s	6	5	180	254	0	0	160	260	14	15	0	0
2020-21f	7	10	180	288	0	0	170	300	11	18	0	0
2019/20年度までの5年間の平均	5	4	163	177	0	0	161	271	8	7	0	0
ルーピン												
2018-19	59	24	50	24	0	0	42	37	510	713	0	0
2019-20s	55	41	34	37	0	0	45	46	350	350	0	0
2020-21f	68	130	38	44	0	0	40	50	350	490	0	0
2019/20年度までの5年間の平均	71	58	42	41	0	0	57	64	391	571	0	0

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。作付面積には、収穫に至った面積、途中で飼料用に転用された面積及び収穫を断念した面積が含まれる。

資料: ABARES (オーストラリア農業資源経済局)、ABS (オーストラリア統計局)、Pulse Australia。

表5 オーストラリアの豆類の供給及び利用状況

	2014-15 (1,000t)	2015-16 (1,000t)	2016-17 (1,000t)	2017-18 (1,000t)	2018-19 (1,000t)	2019-20 (1,000t)
生産量						
ルーピン	549	652	1,031	714	799	475
フィールドピー	290	205	415	317	160	219
ヒヨコマメ	555	875	2,004	998	205	281
見かけ上の国内利用量 ^a						
ルーピン	306	398	637	258	540	230
フィールドピー	124	72	148	189	87	157
ヒヨコマメ	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
輸出量						
ルーピン	243	254	395	456	259	244
フィールドピー	168	134	268	130	75	64
ヒヨコマメ	663	1,145	2,293	724	372	379

a: 生産量に輸入量を加えた値から輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値
 注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は、11月から10月まで。輸出量のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。オーストラリア統計局の農業データ収集の範囲の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の生産者（EVAO）を対象として生産量を集計していたが、2015/16年度以降は40,000ドル以上のEVAOを対象としている。

資料: ABARES（オーストラリア農業資源経済局）、ABS（オーストラリア統計局）、Pulse Australia。

豆類価格の推移(豪ドル/t)

	2019 第1四半期	2019 第2四半期	2019 第3四半期	2019 第4四半期	2020 第1四半期	2020 第2四半期	2020 第3四半期
国内価格: ルーピン (クィナナ調べ)	375	390	396	432	529	552	497
国内価格: ヒヨコマメ (メルボルン調べ)	798	697	651	778	856	736	628
国内価格: フィールド ピー (メルボルン調べ)	617	535	508	489	527	520	449
輸出価格: ヒヨコマメ ^b	896	833	749	830	856	867	763
輸出価格: フィールド ピー ^b	683	689	662	612	663	665	644

a: 単位重量当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。b: 単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が報告したオーストラリアからの輸出の単位重量当たりの輸出価格の平均（F.O.B.本船渡し）である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点との間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注: 第1四半期は1月から3月まで、第2四半期は4月から6月まで、第3四半期は7月から9月まで、第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税（GST）を除外している。

資料: ABARES（オーストラリア農業資源経済局）、ABS（オーストラリア統計局）、CMEグループ、Farm Weekly、IGC（国際穀物商議会）、The Land、The Weekly Times、USDA（米国農務省）。